



平成 30 年度（2018 年度）

履修の手引き

横浜国立大学教職大学院
（教育学研究科高度教職実践専攻）

I 教職大学院（教育学研究科高度教職実践専攻） 履修案内

1. 教職大学院（教育学研究科高度教職実践専攻）の目的

神奈川県教育委員会、横浜市教育委員会、川崎市教育委員会、相模原市教育委員会と連携し、同僚性を構築或いは活性化させ、学校や地域が抱える諸課題に対して中心となって活躍できる次のような人材の養成・育成を目的として平成 29 年度に教育学研究科内に教職大学院（高度教職実践専攻）を設置した。

- ① 学校や地域が抱える教育課題を認識かつ分析し、適切な教育・研究資源を活用しつつ、教員相互の同僚性を構築或いは活性化して、課題解決のプロセスで学校や地域のリーダーとして活躍し、自らも成長する中核的中堅教員
- ② 実践者として学び続けることと研究能力を身に付けることを通して、自ら教育実践上の問題を発見し、その解決に努めるとともに、学校経営の視点も自覚しながら、同僚性を支える一員として、新しい学校づくりに積極的に参画できる新人教員

本教職大学院は、こうした人材養成・育成の際に、地域・学校の抱える教育課題を取り上げ、その解決のプロセスに、メンタリング（主にカリキュラム、学習環境デザイン、生徒指導・教育相談、学級・学校経営、特別支援教育の各領域の知見を応用し、教職実践を同僚として支援し合い高度化すること）の理念・方法を導入し、理論と実践の往還（大学での学修と学校実習の往還）を通して、「学び続ける教員」と「学びを支える教員」による「学び合いの関係性」を連携協力校の中に醸成していく。つまりこれまで層の厚いベテラン教員に主導されて行われてきた日常的・経験的な同僚の教育実践を支え合う活動を、本教職大学院では、研究的・実践的知見から補強し、体系化・高度化することで、効果的・効率的に「同僚性を高め、学びを支え合う」関係性を学校の中に再構築していくことを目指している。

メンタリングの理念・方法の導入は、単に一学校の抱える教育課題の解決だけでなく、地域や他の学校への課題解決と同僚性活性化の手法の波及効果も期待できる。本教職大学院が目指すのは、そうしたメンタリングの理念・方法を通して、種々の教育課題の解決とともに、世代交代の急激な神奈川県下において、新しい学校づくりを支える「高度専門職としての教員」の資質能力の向上を図ることである。

下記のディプロマ・ポリシーに基づいて、教職修士（専門職）（Master of Education for Professional Development）の学位が授与される。

【現職教員学生】

① 知識・技能

学校や地域の教育課題解決に向けて、スクールリーダーとして必要とされる、学校の組織運営、教科等の指導と評価、児童生徒指導に関する実践的な知識・技能等を身に付けている。

② 思考力・判断力・表現力

学校や地域の教育課題に関して、課題の分析や解決に向けた筋道等を、学校組織の在り方や学校内外の教育資源の活用方法等も考慮しながら、具体的に提案し共有化を図ることができる。

③ 主体的・協働的に学ぶ態度

急速に変化する社会や教育現場の課題に関して、学校や地域の教員とともに主体的・協働的に学び、自らの生きがいとして学び成長する姿を若手教員等に示すことができる。

【学部新卒学生】

① 知識・技能

自らの教育実践上の課題を発見するとともに、新しい学校づくりの一員として、学校の組織運営、教科等の指導と評価、児童生徒指導に関する知識・技能等の重要性を理解している。

② 思考力・判断力・表現力

自らの教育実践上の課題や、学校や地域の教育課題に関して、新しい学校づくりの一員として、課題の分析や解決に向けて自ら考え、提案することができる。

③ 主体的・協働的に学ぶ態度

学校や地域の先輩教員とともに学び、同僚性を支えながら、新しい学校づくりに積極的に参画することができる。

2. カリキュラム

〔1〕カリキュラム・ポリシー

【現職教員学生】

学校や地域のスクールリーダーとして活躍できる高度専門職として、教職を目指す学部新卒学生とともに学び合いながら、実践的知を理論によりさらに高度化し、責任感と意欲を高めることができるカリキュラムを提供する。

【学部新卒学生】

新しい学校づくりの一員として活躍できる専門職として、先輩教員とともに学び合いながら、理論と実践の往還により、確かな力として定着させ、学び続ける意欲をもった人材育成のできるカリキュラムを提供する。

〔2〕授業科目の構成

共通科目（22単位）、選択科目（10単位）、学校実習科目（10単位）、課題研究（4単位）で構成する。

なお、授業は、6ターム制で行い、原則として研究者教員と実務家教員のティーム・ティーチング、少人数（最大15名）、「講義＋演習」を基本とした90分2コマで実施する。また、授業は原則午前中に行い、午後は実習校（連携協力校）での活動や大学での受講の準備等に当てるなど、各自が主体的に学修に取り組む時間としている。

① 共通科目

共通科目は、実務家教員と研究者教員が協働で授業を実施して、理論と実践を往還しながらより深い実践的な学修を目指すものである。教職大学院に義務づけられた必置5領域に現代的な教育課題の領域を加え、神奈川県地域実態に合わせた「教育改革の現状と神奈川の教育事情」、「インクルーシブ教育の理論と課題」も必修科目とした。

原則として、現職教員学生と学部新卒学生の学生が同じ授業を受講する。

② 選択科目

選択科目は、共通科目の各領域で設定されている授業を土台としてより専門的に学修できる科目に加え、様々な教育課題に対応するための科目が設定されている。選択科目についても、実務家教員と研究者教員が協働で授業を実施して、理論と実践を往還しながらより深い実践的な学修を目指す。

学部新卒学生向けの科目は、共通科目の教育課程の編成・実施、教科等の実践的な指導方法の発展的な内容として、学力、総合的な学習のカリキュラム、教材研究・単元開発に関するものが設定されている。現職教員学生向けの科目は、学校経営的な視点を深めるために、校内研究・研修、教育の情報化と学校改革に関するもの、広い視野から教育を見直し、グローバル化に対応した教育のあり方を検討するためのものが設定されている。

③ 学校実習科目（詳細は「実習の手引き」参照）

学校実習は、二系統に分けて行う。一つの系統は〈基礎実習〉であり、「授業基礎実地演習」と「学級・学年経営基礎実地演習」で、授業や学級経営に関する基本的なスキル等を実践を通して身に付けることを狙いとして実習を行う。今一つの系統は、〈メンタリングに関する実習〉であり、個別メンタリングを行う「メンタリング実地研究」と組織的なメンタリングを行う「チームメンタリング実地研究」で、主に教員間の協働性を活性化するための教職メンタリングの角度から実習を行う。

なお、現職教員学生のうち短期履修が認められたものは、基礎実習の履修を免除することができる。

④ 課題研究

「学校課題解決研究Ⅰ・Ⅱ」「学校課題解決研究Ⅰ・Ⅱ（特別支援教育）」では、学校実習（〈基礎実習〉〈メンタリングに関する実習〉）における実践、観察・調査、メンターチームへの参画等の成果をもとに、グループでの報告、全教員・全学生が一堂に会してのプレゼンテーション、討議等により、情報交換、意見交流を定期的に行う。

「授業基礎実地演習」「特別支援教育授業基礎実地演習」は主に「学校課題解決研究Ⅰ」「学校課題解決研究Ⅰ（特別支援教育）」において、「学級・学年経営基礎実地演習」「特別支援学級・学年経営基礎実地演習」は主に「学校課題解決研究Ⅱ」「学校課題解決研究Ⅱ（特別支援教育）」において省察が加えられる。

「チームメンタリング実地研究」、「メンタリング実地研究」、「特別支援教育チームメンタリング実地研究」、「特別支援教育メンタリング実地研究」については「学校課題解決研究Ⅰ・Ⅱ」「学校課題解決研究Ⅰ・Ⅱ（特別支援教育）」において年間を通して省察が加えられる。

その成果を、指導教員による個別指導等を通して、学校課題研究報告書にまとめる。修士論文とは異なり、論文としての形式には拘らない。例えば、先行研究等のレビューは最小限にとどめても構わない。テーマとして設定した学校の教育実践上の課題とその背景（経緯）等についての説明と、課題の解決に向けて「チームメンタリング実習」等において取り組んだ活動の詳細、その成果と課題等についてまとめることが求められる。課題解決のための自らの『実践』が記述されていない、文献研究のみの報告書は認められない。報告書作成のプロセスにおいて、以下の取り組みが必要となる。

- ・ 研究テーマと「チームメンタリング実習」の活動計画の発表（4、5月）
- ・ 中間報告会（8月末）
- ・ 学校課題研究報告書の提出（1月末（予定））

- ・ 教職大学院研究成果報告会（2月、公開）

この他、学生の研究経過や成果を発表する場として、各種学会等を活用し、その成果を広く発信し、多様な視点からの批判的検討をくぐることで、より深い総括ができるようにする。

なお、短期履修で修了した現職教員学生については、修了一年後にその後の取り組みも含めた全体の総括を「教職大学院研究成果報告会」において報告し、その普及に努める。

3. 履修基準・履修方法等

〔1〕履修基準

授業科目は、「共通科目」、「選択科目」、「学校実習科目」、「課題研究」に区分される。詳細は「5. 開講科目一覧」を参照。

修了要件を満たすためには、〈表1〉の最低単位数を満たし、合計46単位以上（短期履修を認められた者については40単位以上）を修得する必要がある。

〈表1〉

授業科目		最低単位数
科目区分	科目領域等	
共通科目	教育課程の編成・実施に関する領域	3科目6単位選択必修
	教科等の実践的な指導方法に関する領域	
	生徒指導、教育相談に関する領域	8科目16単位必修
	学級経営、学校経営に関する領域	
	学校教育と教員の在り方に関する領域	
現代的な教育課題		
選択科目	共通選択科目	5科目10単位以上 選択履修（※1）
	学部新卒学生向け科目	
	現職教員学生向け科目	
	特別支援教育に関する科目	
学校実習科目	基礎実習	10単位必修（※2）
	メンタリング実習	
課題研究		4単位必修
合計		46単位（※3）

※1 原則として、学部新卒学生向け科目は学部新卒学生、現職教員学生向け科目は現職教員学生が受講対象だが、各自の課題に応じてはその限りではない。

※2 短期履修の場合はメンタリング実習4単位必修

※3 短期履修の場合は40単位

〔2〕履修単位の上限及び標準履修単位

- ・ 1年間の修了に関する単位の履修上限は、40単位までとする。
- ・ 1年次の標準履修単位は20単位となっているので1年次終了時に標準単位以上の単位を取得するようにする。

〔3〕履修方法

授業は6ターム制（※）で行い、「講義＋演習」を基本とした90分2コマで実施する。

「共通科目」と「選択科目」は、月～金曜日の1～2時限及び土曜日あるいは長期休業期間の集中講義として開講する。

※ 6ターム制：春学期（4月1日から9月30日まで）、秋学期（10月1日から翌年3月31日まで）をそれぞれ3つのターム（前半、後半、長期休業）に区切って運用するもの。

〈表2〉

時限	月～金曜日	土曜日・休業期間等
1	8時50分～10時20分	集中講義
2	10時30分～12時00分	
3	13時00分～14時30分	
4	14時40分～16時10分	
5	16時15分～17時45分	

<表3>

学期	ターム	期間
春学期	第1ターム	4月 6日(金) ~ 6月 7日(木)
	第2ターム	6月 8日(金) ~ 8月 3日(金)
	第3ターム	8月 4日(土) ~ 9月30日(日)
秋学期	第4ターム	10月 5日(金) ~ 11月30日(金)
	第5ターム	12月 3日(月) ~ 2月12日(火)
	第6ターム	2月14日(木) ~ 3月31日(日)

〔4〕履修登録（詳細については履修について（巻末資料）参照）

授業科目を履修し単位を修得するには、別に定める履修登録期間内に大学内又は自宅等のパソコンを使用し履修登録手続きを行わなければならない。まず、本履修の手引き、授業概要、時間割表で履修方法、履修条件等を確認し履修計画を立て、パソコンで「学務情報システム」(WEBシステム)に接続し履修する科目の登録を行うこと。詳細は、学務情報システム操作方法(巻末資料)を参照すること。

①履修登録に関する注意事項

- a. 履修登録を行わなかった授業科目は、原則として履修することができない。また、一度届け出た履修登録科目は、原則として変更できない。
- b. 同一曜日・時限に2つ以上の授業科目を履修することはできない。
- c. 履修登録期間は、春学期(4月)と秋学期(10月)の年2回で、春学期には、第1ターム～第3ターム開講科目及び通年科目、秋学期には第4ターム～第6ターム開講科目を履修登録する。

②履修登録キャンセル

履修登録完了後に履修登録科目を取り消す場合、履修登録キャンセル期間(全学統一。期間は巻末資料参照)に「学務情報システム」でキャンセルをすること。

なお、集中講義等上記とは別にキャンセル期間を定めている科目もある。詳細は掲示で確認すること。その場合は、別に定める期間内に所定の「履修登録キャンセル申請書」(窓口配付様式)に記入し、窓口へ届け出ること。

履修登録に係る諸手続きの方法等については、掲示により通知するので、掲示板に注意すること。

〔5〕個人情報等の取扱い並びに研究倫理に関する遵守事項

本専攻では、画像を含む多くの個人情報に関連するデータを取り扱う。別途説明することを踏まえ十分に注意すること。

〔6〕教育学研究科高度教職実践専攻以外の授業科目の履修

教育学研究科高度教職実践専攻以外の授業科目の履修については、教育職員免許状1種又は、2種を取得するために教育学部の科目履修が必要である場合のみ1年間に20単位まで認められている。

なお、修得した単位は、「増加単位」となり修了に必要な単位とすることができない。

4. 教育職員免許状（専修免許状）

小学校、中学校、高等学校、栄養教諭、養護教諭及び特別支援学校(養護学校)の一種免許状を所有する者は、当教職大学院において当該免許の種類と対応する科目を24単位以上修得することにより、修了時に、所有する一種免許状に対応する別表1の「専修免許状」の取得資格を得ることができる。

〔1〕取得可能免許状及び免許対応科目について

①取得可能免許状

小学校教諭専修免許状	
中学校教諭専修免許状	国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、技術、家庭、英語、保健、職業、職業指導、宗教、中国語、フランス語、ドイツ語、スペイン語、韓国・朝鮮語、アラビア語
高等学校教諭専修免許状	国語、地理歴史、公民、数学、理科、音楽、美術、工芸、書道、保健体育、工業、家庭、英語、保健、看護、情報、農業、商業、水産、福祉、商船、職業指導、宗教、中国語、フランス語、ドイツ語、スペイン語、韓国・朝鮮語、アラビア語
栄養教諭専修免許状	
養護教諭専修免許状	
特別支援学校教諭専修免許状	(「知的障害者に関する教育の領域」、「肢体不自由者に関する教育の領域」、「病弱者に関する教育の領域」)

②各科目の免許科目への対応について

「5. 開講科目一覧」の免許状対応科目を確認の上、24単位以上を修得する。

5. 開講科目一覧（免許対応科目一覧）

科目区分等		授業科目	単位数	小・中・高・養・栄 専修免許状対応※1	特別支援学校 専修免許状対応		
共通科目	教育課程の編成・実施に関する領域	学習指導要領と教育課程の編成	6単位選択必修	2	○		
		特別支援教育の教育課程開発		2		○	
	教科等の実践的な指導方法に関する領域	授業デザインの理論と実践		2	○		
		ICTを活用した授業改善		2	○		
		特別支援教育の授業デザイン		2		○	
		個別の教育支援計画・個別の指導計画		2		○	
	生徒指導、教育相談に関する領域	教育相談体制とカウンセリング		16単位必修	2	○	
		児童生徒がもつ課題の理解と指導方法			2	○	
	学級経営、学校経営に関する領域	組織マネジメントと学校経営			2	○	
		学級経営・学級指導の実践と課題			2	○	
	学校教育と教員の在り方に関する領域	教職メンタリングの理論と実践			2	○	
		教員の社会的役割と職能発達			2	○	
	現代的な教育課題	教育改革の現状と神奈川の教育事情			2	○	
		インクルーシブ教育の理論と課題			2		○
選択科目	共通選択科目	教育実践研究の方法	10単位以上選択履修		2	○	
		教育実践論文演習			2	○	
		学習科学と教材開発			2	○	
		家庭・地域と連携した情報モラル教育			2	○	
		課題フィールドワーク			2	○	
	学部新卒学生向け科目	基盤的な学力育成の理論と実践			2	○	
		総合的な学習の理念とカリキュラム開発		2	○		
		教材研究・単元開発		2	○		
	現職教員学生向け科目	校内研究・研修の方法論		2	○		
		教育の情報化と学校改革		2	○		
		教育の国際比較		2			
	特別支援教育に関する科目	特別支援学校経営の理論と実践		2		○	
		特別支援教育の理論と実践		2		○	
		特別支援教育コーディネータの役割と課題		2		○	
発達障害児の心理と教育		2		○			
学校実習科目	基礎実習	授業基礎実地演習	10単位必修	2	○		
		学級・学年経営基礎実地演習		4	○		
		特別支援教育授業基礎実地演習		2		○	
		特別支援学級・学年経営実地演習		4		○	
	メンタリング実習	メンタリング実地研究		2			
		チームメンタリング実地研究		2	○		
		特別支援教育メンタリング実地研究		2		○	
		特別支援教育チームメンタリング実地研究		2		○	
課題研究	学校課題解決研究Ⅰ	4単位必修	2	○			
	学校課題解決研究Ⅱ		2	○			
	学校課題解決研究Ⅰ（特別支援教育）		2		○		
	学校課題解決研究Ⅱ（特別支援教育）		2		○		

- ※1 取得可能免許状内（特別支援学校専修免許状を除く）の免許状については、複数の学校種・教科（一種免許状取得済み）の専修免許状を取得する場合でも合計24単位を修得することで複数の専修免許が取得可能である。
- ※2 特別支援学校専修免許状及び他の取得可能免許状を取得するには、必ず窓口相談すること。
- ※3 特別支援学校専修免許状取得希望者で短期履修を認められた者については、特別支援教育授業基礎実地演習及び特別支援学級・学年経営基礎実地演習が免除となるため、他の特別支援学校専修免許状対応科目すべてを取得の必要がある。

6. 指導教員、修業年限等

〔1〕指導教員について

- ①高度教職実践専攻の専任教員2名が指導教員（主担当＋副担当）として指導に当たる。
- ②履修計画の策定、学校実習の計画及び学校課題研究報告書のテーマの決定や作成にあたって、指導教員の指導と助言を受けること。

〔2〕修業年限

- ①標準修業年限は2年とする。
- ②短期履修を認められた者については、1年とする。
- ③休学期間を除いた在学可能期間は、4年とする。（短期履修を認められた者は除く。）
- ④在学期間が1年を過ぎた者は、2年次生として扱う。

〔3〕修了要件

- ①履修基準に従って46単位以上修得すること。
- ②短期履修を認められた者については、40単位以上修得すること。
- ③通算GPA(Grade Point Average)が2.0以上であること。詳細は「7. 評価」参照。
- ④学校課題研究報告書の審査に合格すること。
- ⑤短期履修を認められた者については、学習達成度評価委員会（派遣先教育委員会担当者を含む）の審査において、1年次終了の段階で2年終了時に達成すべき水準に達していること。

〔4〕修了判定について

修了は、単位数、必修科目の取得及びGPAの基準を満たしていることを確認のうえ、学校課題研究報告書の提出及び教職大学院研究成果報告会における発表を課題研究の主担当教員及び副担当教員が審査するとともに、教職大学院教員養成・育成スタンダードに基づき、本専攻の目標が達成されていることを総合的に判定する。

なお、短期履修を認められた者については、上記のほか、課題研究の主担当教員及び副担当教員に加え、派遣元教育委員会担当者を含む「学習達成度評価委員会」において、1年次終了の段階で2年次終了時に達成すべき水準に達しているかを審査する。修了後も教育委員会等による研修会等での報告、1年後の「教職大学院研究成果報告会」における取組全体の振り返りと成果報告を行う。

7. 評価

〔1〕成績の評価

学業成績は、授業中の発言や発表、模擬授業又はレポートなどを考慮して評価する。単位認定はタームごとに行う。学校実習科目については、院生の実習でのポートフォリオや本人との面談、実習校の指導教員からの聞き取りにより評価する。

GPA(Grade Point Average)は履修した授業科目のうち、修了に関わる授業科目の成績にGP(Grade Point)を与え、当該科目の単位数を乗じた総和を、履修登録した授業科目の総単位数で除して算出される。

なお、GPA2.0以上が修了要件である。

①成績評価の基準

本学では授業の成績評価に5段階の成績評価グレード（秀、優、良、可、不可）を用いている。（その他、「合格」、「不合格」の成績グレードを用いる科目もある。）

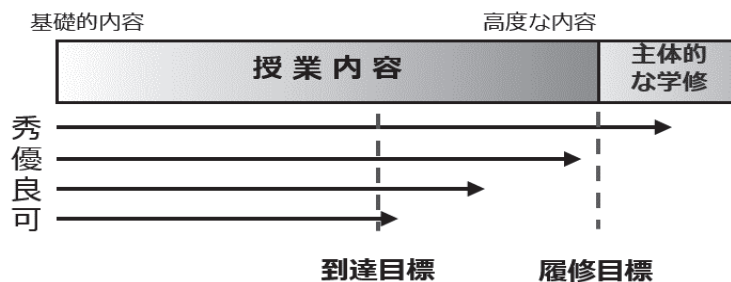
授業における成績評価は、履修目標、到達目標に準じて行われ、履修目標、到達目標と成績グレードの関係は「成績評価の基準表」で表している。なお、「可」以上を修得すると所定の単位を与える。

〈表4〉 成績評価の基準表

成績グレード	秀	優	良	可	不可
基準	履修目標を越えたレベルを達成している	履修目標を達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している	到達目標を越えたレベルを達成している	到達目標を達成できていない

履修目標：授業で扱う内容（授業のねらい）を示す目標である。より高度な内容は自主的な学修で身につけることを必要としている。
 到達目標：授業を履修した人が最低限身につける内容を示す目標である。履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階である。

※履修目標、到達目標と成績グレードとの関係



②GPA制度について

本学ではGPA（Grade Point Average）を導入している。GPAとは、履修した科目の評価をGPに置き換え、GPに履修した単位数をかけその総和を履修登録の総単位数で割り算出するものである。

GPA2.0以上が修了要件である。

〈表5〉

成績グレード	合格				不合格
	秀 (S)	優 (A)	良 (B)	可 (C)	不可 (F)
GP	4.5	4	3	2	0

$$\text{GPA} = \frac{\text{総和 (GP} \times \text{単位数)}}{\text{履修科目単位数}}$$

〔2〕教職大学院スタンダードに基づく評価

教職大学院では、在学中の2年間（短期履修の場合は1年間）を通して教職大学院スタンダードの実現が最終目標となる。

まず、スタンダードによって自身の現状を自己評価し、目標を設定する。そして、授業や実習を通して目標の実現を目指し、理論と実践の往還を意識し、振り返りを重ねながら学修に取り組む。その際に、院生同士の相互評価や大学教員や実習校教員による評価を活かすことが重要である。これらの評価を参考にしながら振り返りを行い、新たな目標を立て、その実現に向けて取り組むというサイクルを歩んでいく。これらのサイクルは、1つの授業や実習の中で何度も繰り返し行い、活動を重ねていくことで、最終的に教職大学院スタンダードの実現を目指す。

授業の振り返りや実習の記録（実習日誌）にはe-ポートフォリオを用いる。一人一人自分のページを持ち、自分のページに日記を書くような感覚で振り返りや実習日誌をつけることができる（専用のフォームから振り返りや日誌を投稿できる）。また、それぞれの投稿に対し、コメント欄が用意されており、指導教員や他の教員、院生がコメントを残すことができる。

e-ポートフォリオに学習活動と振り返りを蓄積することが、スタンダードの達成の主要なエビデンスとなるので、履修期間中は、継続的に記述することが必要である。

8. 講義室及び自習室

〔1〕講義室

附属教育デザインセンター206室を主講義室とし、同201室をアクティブラーニング教室とする。また、特別支援教育関係の講義は第3研究棟215室を使用することもある。いずれの部屋にも電子黒板等のICT機器を設置しており、ICTを活用した授業を行う。

〔2〕自習室

全学共用棟C棟1階を教職大学院生の自習室とし、個別学習や少人数グループでの学習用に活用する。

9. 授業科目の概要

●共通科目

授業科目	担当教員	単位数	講義の概要
学習指導要領と教育課程の編成	高木まさき、石塚等	2	教育課程の意義や教育課程に関する法令、学習指導要領の趣旨・内容、学習の評価、カリキュラム・マネジメントについて考えながら学修させ、学校において特色ある教育課程の編成に主体的に参画するために必要な能力を身に付ける。
特別支援教育の教育課程開発	渡部匡隆、名執宗彦	2 (特)	通常教育とは大きく異なる特別支援教育の教育課程の理論について、我が国の特別支援教育の歴史的な変遷を踏まえながら検討する。そして、特別支援学校、特別支援学級、及び通級による指導の教育課程の編成について、肢体不自由を中心に障害種別毎に分析を行い、特別支援教育として望ましい教育課程編成のための知識と技量を身に付ける。
授業デザインの理論と実践	高木まさき、柳澤尚利	2	学習指導要領及び学校の教育課程の編成方針に従って、学習内容の系統性等を踏まえ、目標設定、単元開発や授業づくり、教材開発、アクティブ・ラーニングを含む多様な指導方法、評価等の在り方を理解し、その改善に必要な能力を身に付ける。
ICTを活用した授業改善	野中陽一、椎名美由紀	2	教科指導におけるICT活用について、実物投影機、指導者用デジタル教科書、インターネット上の教材等の活用に関する演習を行いICT活用による授業改善とその効果について、理解する。
特別支援教育の授業デザイン	渡部匡隆、持田訓子	2 (特)	障害のある幼児児童生徒の自立と社会参加の実現を目指した授業をデザインするため、知的障害を中心に幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、持てる力を最大限に発揮するための授業づくりが可能となる教師の専門的能力を培う。
個別の教育支援計画・個別の指導計画	名執宗彦、持田訓子	2 (特)	障害のある児童生徒一人ひとりの教育的ニーズを把握し、就学前から学校卒業後までを通じて一貫して適切な教育的支援を行うことを目的として作成する「個別の教育支援計画」と、教育課程を具体化し個々の子どもの教育的ニーズに対応したきめ細やかな指導を行うための計画である「個別の指導計画」の理念を正しく理解した上で、これらの書類の作成手順を学び、適切な書類の作成方法を習得する。また作成後の、管理や活用の方法も併せて学ぶ。
教育相談体制とカウンセリング	佐野泉、泉真由子	2	教育相談の観点から、配慮や支援を必要とする子どもの「困難」などの背景要因やメカニズム等について講義や演習を通して理論的に学ぶ。子どもの「つまずき」や「困難」などの背景要因やメカニズム等について理解するとともに、分析や評価、検討の方法などについて知識を深める。さらに、演習を通して学校生活全体を通じた指導内容・方法と子どもの適応との関係や支援方法について、体験的検討を行う。

児童生徒がもつ課題の理解と指導方法	佐野泉、大島聡	2	今日の教育問題について、基礎的データ・諸事例・諸研究とを通して検討する。その上で、諸問題を克服する着眼点として、構成的グループエンカウンターをはじめとする諸グループワークを元に、「遊び」と「表現」とを取り上げ、教育人間学的に考察する。また、「遊び」や「表現」を各教科の授業と関連付ける事で、教科名に挙げた児童生徒の問題行動理解へと受講者の意識を深め、その指導方法を具体的に確立させていくことを目指す。そのことから、子どもの表現を一層深く読み解き、活性化させることで、教師の子ども理解を深化させ、子どもの全体的な成長を促していく教育実践について考える。
組織マネジメントと学校経営	大内美智子、北村公一	2	学校経営の改善に関して、組織マネジメントの観点から基礎理論及び先進的実践事例について学ばせる。また、学校経営を、次の4つの領域、①「組織経営領域」②「自己成長領域」③「対人間関係領域」④「業務遂行領域」に分類し、組織マネジメントの理論をそれぞれの領域に援用しながら、グループ・ディスカッションやスキル・トレーニング等を行う。このことを通して、これからの学校経営の姿及び改善策の探究、協働参画を推進するための職能の開発等を目指す。
学級経営・学級指導の実践と課題	大内美智子、佐野泉	2	児童・生徒の充実した学校生活の基盤は学級にある。児童・生徒がそれぞれの良さや個性を表出し協同意識の高い学級づくりを行うための学級経営・学級指導の基礎事項を理解することを図る。また、事例に基づいてグループワークやグループディスカッションによる課題の考察等を通して、優れた学級経営と学級指導の実践力を身に付ける。
教職メンタリングの理論と実践	脇本健弘、柳澤尚利	2	教職に関するメンタリングについて扱う。教師の専門性を学び、それらをふまえて支援ができるようになることを目指す。具体的には、1対1の対面でのメンタリングやチームでの複数のメンタリングなど、多様な形式のメンタリングの理論や方法について学ぶ。
教員の社会的役割と職能発達	脇本健弘、北村公一	2	教師という職業がどのように誕生し、現在何が求められているのか、これまでの学校制度などの歴史や法律など、様々なテーマを扱いながら考察する。また、現在の教師をめぐる様々な事象を扱い、今後教師としてどのように学んでいけばよいのか考える。
教育改革の現状と神奈川の教育事情	石塚等、北村公一	2	国及び神奈川県における教育課題と教育改革の意義と現状について具体的な事例を通して考えながら学修させ、学校現場や教育行政の立場から解決すべき様々な教育課題に適切に対応できる能力を身に付ける。
インクルーシブ教育の理論と課題	泉真由子	2 (特)	「共生社会の形成」という観点から、障害の有無にかかわらず全ての人間が支え合いながら社会を構成しているという意識を涵養する。事例に基づいて課題を考察しながらインクルーシブ教育の理念と内容を理解し、その実現に必要な能力を身に付ける。

●選択科目

授業科目	担当教員	単位数	講義の概要
教育実践研究の方法	脇本健弘、野中陽一	2	教育実践に関する研究の方法を学ぶ。具体的には、学校現場の見方を、量的調査、質的調査を中心に実際に体験することで習得する。量的調査については、統計学を学びつつ、質問紙法などを扱う。質的調査ではインタビュー法などを扱う。授業は研究方法を座学で学びつつ、実際に実習を行いながら実施する。
教育実践論文演習	高木まさき、泉真由子、大島聡、野中陽一、渡部匡隆、脇本健弘	2	教育実践、学校課題に関連する文献調査の方法、論文の講読を行う。教員の専門分野に関する論文や、院生の問題関心に応じた論文を中心に講読し、その内容を理解するだけでなく、研究テーマの設定、先行研究の調査、研究方法等について分析し、自らの実践研究を論文としてまとめる方法について学ぶ。

学習科学と教材開発	脇本健弘	2	学習科学にもとづく教材設計について学修する。具体的には、学習に関する理論（行動主義・認知主義・状況論）を概観し、それぞれの理論がどのようなものか、それら理論をもとに、どのような教材が開発されているのか理解できるようにする。最終的には、学習環境というより広い視野で学習を捉え、学習科学の知見をもとに教材設計が出来るようにする。
家庭・地域と連携した情報モラル教育	大島聡、椎名美由紀	2	現行学習指導要領で、情報モラルについての教育の実施が求められ、各学校では実践が始められている。本科目では、まず情報モラル教育の背景を探り、対象とする情報モラルの内容を明らかにしていく。また、授業事例を参考にしながら、有効な方法について考察をする。最後に、自らの観点で実践をデザインし、相互に発表、検討し合う。
課題フィールドワーク	高木まさき、泉真由子、大島聡、野中陽一、渡部匡隆、脇本健弘、石塚等、大内美智子、北村公一、佐野泉、名執宗彦	2	学校訪問・調査や教職大学院教員のシャドーイング、教育委員会・教育センター等でのインターン等、連携協力校以外の実践現場において、院生が自ら学校課題の解決や授業改善に必要な取り組みを事前調査をもとに企画立案し、報告書にまとめて発表する。
基盤的な学力育成の理論と実践	高木まさき、石塚等、両角達男	2	学習指導要領の学力観の変遷、諸外国におけるコンピテンシーによる改革、PISA 調査で測ろうとする学力などを概観するとともに、全国学力・学習状況調査の結果等を踏まえた授業改善やアクティブ・ラーニングなどの指導方法の改善を図る能力を身に付ける。
総合的な学習の理念とカリキュラム開発	大内美智子、柳澤尚利	2	総合的な学習の時間が創設された背景や目標を学習指導要領改訂の趣旨や要点に基づいて理解し、さまざまな事例を検証しながら学校の特色を生かしたカリキュラムの開発やカリキュラム・マネジメントについて学ぶ。また、実際に単元開発や授業構想ができる能力を身に付ける。
教材研究・単元開発	両角達男、佐野泉	2	授業づくりや授業改善に向けた教材研究、および単元開発の意義とその内容について、理論的な考察とその具体に関する理解を深める。その際に、授業者の視点、学習者の視点を意識した教材研究や単元開発を進める。また、テーマに基づく単元を開発し、開発した単元に関わる議論を通して、改めて「教材研究・単元開発」とは何かに迫る。
校内研究・研修の方法論	大内美智子、北村公一	2	校内研究・研修のテーマ設定、目標の具現化、方法の焦点化、指導法の開発、評価方法等の校内研究・研修推進のための基礎的な理論の習得及び実践力の向上を図る。そのために校内研究・研修の先進校や開発校での具体的な実践事例の分析をもとに、グループワーク、グループディスカッションやプレゼンテーションをベースとした学修を行う。
教育の情報化と学校改革	野中陽一、大島聡、椎名美由紀	2	教育の情報化による学校改革の在り方について、授業におけるICT活用の考え方、情報活用能力を育成するための体系的な情報教育や情報モラル教育のカリキュラムや指導方法、教員の事務負担の軽減と子どもと向き合う時間の確保のための校務の情報化、情報化の推進体制等の観点から検討する。
教育の国際比較	野中陽一、脇本健弘、大内美智子、小池研二	2	いくつかの視点で日本と他国の教育を比較することを通して、日本の教育の特徴を理解し、現状と課題について検討する。情報教育等を切り口にして日英の授業実践の比較をしたり、教師教育の動向を探ったりする。また、教員研修留学生等のゲストスピーカーから教育実践、教育改革に関する情報を得て、日本との比較を行う。
特別支援学校経営の理論と実践	名執宗彦	2 (特)	特別支援学校の管理職に求められる学校組織マネジメント・学校評価の実践的力量を、実践的トレーニング（事例検討や現任校の現状分析等）から育成する。

特別支援教育の理論と実践	泉真由子、名執宗彦	2 (特)	障害児教育から特別支援教育への変遷の概要と特別支援教育の理念を理解する。病虚弱を中心としたさまざまな障害の疑似体験等を通し、障害理解を促進する。また、地域の関係諸機関との連携、障害のある子どもだけではなくその家族への支援の重要性を理解し、各対象への具体的な支援方法を考案することができる能力を身に付ける。
特別支援教育コーディネータの役割と課題	渡部匡隆、持田訓子	2 (特)	特別支援教育推進のキーパーソンとなる特別支援教育コーディネータに期待される役割、基本的業務を理解する。複数のケース検討を通し、それぞれの業務について起こりうる問題や課題を整理し、具体的な解決策を考案することができる能力を身に付ける。
発達障害児の心理と教育	渡部匡隆	2 (特)	自閉症スペクトラム、注意欠陥多動性障害、学習障害、軽度知的障害に焦点をあて、障害の概念と定義(診断基準)、行動特性、教育上の基本的な配慮事項と指導法について教育・研究する。

●学校実習科目

授業科目	担当教員	単位数	講義の概要
授業基礎実地演習	大島聡、高木まさき、野中陽一、脇本健弘、石塚等、大内美智子、北村公一、佐野泉	2	定期的な授業観察及び参与を通して、授業改善に関わる課題を明確化し、観察及び学習成果を元に自ら授業実践等を行い、単元を通じた授業実践ができるようになることを目指す。また、授業においては、児童生徒の姿に応じて柔軟に実践ができ、授業後には、毎時間の児童生徒の学びを省察し、理論と実践を結び付けながら授業の改善ができるようになることを目指し、学校課題解決研究Ⅰでリフレクションを行う。
学級・学年経営基礎実地演習	大島聡、野中陽一、脇本健弘、石塚等、大内美智子、北村公一、佐野泉	4	授業のみならず、学級・学年経営や学校経営に携わることで、学級・学年経営や学校経営、教科経営について学ぶ。担任として自律して授業や学級経営を行うことができ、学年経営や校務分掌など学校経営に関しても、学校における自身の在り方や役割(学び続ける教員、学校作りの有力なメンバー)なども考えることができるよう、1年を通して、自らの実習を記録し、理論と結び付けながら、教育課題(研究課題)解決に向けた教育実践等の在り方を分析する。定期的に、授業や学級経営、児童・生徒指導、学校行事等の映像を持ち寄り、教員と院生でカンファレンスを行い、学校課題解決研究Ⅰ・Ⅱでリフレクションを行う。
メンタリング実地研究	大島聡、高木まさき、野中陽一、脇本健弘、石塚等、大内美智子、北村公一、佐野泉	2	実習校の若手教員を対象に1対1のメンタリングを行う。 現職教員学生は、これまで学修したメンタリング理論を用いて、若手教員へのインタビューを行い、若手教員がどのような課題や悩みを抱えているのか分析を行い、それらに基づいて個別メンタリングを実施する。また、メンタリングによる他者支援を通して教員の成長プロセス(経験学習)を学び、自身の成長にも活かすことができるようになることを目指す。 学部新卒学生は、メンタリング行為の観察・分析を通して、経験学習の各プロセスでどうすべきなのか理解し、専門家として自律的に学んでいく素地を身に付ける。自身の課題とその解決策を把握するなど、授業や学級経営においてどのように現場をみればよいのかわかるようになることで、若手のリーダーとして後輩教員にメンタリングを行えるようになることを目指す。また、実習の後半では状況に応じて前半での分析成果をふまえてメンターとして教職大学院の学部新卒学生1年生を対象に、もしくは、若手教師の授業映像等を用いて模擬メンタリングを行う。学校課題解決研究Ⅰ・Ⅱでリフレクションを行う。
チームメンタリング実地研究	大島聡、高木まさき、野中陽一、脇本健弘、石塚等、大内美智子、北村公一、佐野泉	2	現職教員学生は、学校の課題解決をチームで効果的に行えるようになり、それによって、校内の同僚性の基盤を作ることができ、学校が抱える問題を解決することができるようになることを目指す。 学部新卒学生は、チームの活動を通して、若手教員としてどのように学校が抱える問題の解決に参画できるか考えられるようになり、また、若手教員として校内の教員と関係を築けるようになることを目指す。現職教員学生による学校組織・学校の課題(の現状)分析、チームメンタリングの設計・実施・統括的評価を行う。学校課題解決研究Ⅰ・Ⅱでリフレクションを行う。

特別支援教育 授業基礎実地 演習	泉真由子、渡部匡隆、 名執宗彦	2 (特)	定期的な授業観察及び参与を通して、授業改善に関わる課題を明確化し、観察及び学習成果を元に自ら授業実践等を行い、個々の児童生徒の教育的ニーズに応じた（それぞれの障害に配慮した）きめ細かい指導実践ができるようになることを目指す。また、授業においては、児童生徒の姿に応じて柔軟に実践ができ、授業後には、毎時間の児童生徒の学びを省察し、理論と実践を結び付けながら授業の改善ができるようになることを目指し、学校課題解決研究Ⅰでリフレクションを行う。
特別支援学 級・学年経営 基礎実地演習	泉真由子、渡部匡隆、 名執宗彦	2 (特)	授業のみならず、特別支援学級あるいは特別支援学校の学級・学年経営や学校経営に携わることで、学級・学年経営や学校経営、教科経営について学ぶ。担任として自律して授業や学級経営を行うことができ、学年経営や校務分掌など学校経営に関しても、学校における自身の在り方や役割(学び続ける教員、学校作りの有力なメンバー)なども考えることができるよう、1年を通して、自らの実習を記録し、理論と結びつけながら、教育課題(研究課題)解決に向けた教育実践等の在り方を分析する。定期的に、授業や学級経営、児童・生徒指導、学校行事等の映像を持ち寄り、教員と院生でカンファレンスを行い、学校課題解決研究Ⅰ・Ⅱでリフレクションを行う。
特別支援教育 メンタリング 実地研究	泉真由子、渡部匡隆、 名執宗彦	2 (特)	特別支援学校あるいは普通学校の特別支援学級等の実習校の若手教員を対象に1対1のメンタリングを行う。 現職教員学生は、これまで学修したメンタリング理論を用いて、若手教員へのインタビューを行い、若手教員が特別支援教育に関連してどのような課題や悩みを抱えているのか分析を行い、それらに基づいて個別メンタリングを実施する。また、メンタリングによる他者支援を通して教員の成長プロセス(経験学習)を学び、自身の成長にも活かすことができるようになることを目指す。 学部新卒学生は、メンタリング行為の観察・分析を通して、経験学習の各プロセスでどうすべきなのか理解し、専門家として自律的に学んでいく素地を身に付ける。自身の課題とその解決策を把握するなど、授業や学級経営においてどのように現場をみればよいのかわかるようになることで、若手のリーダーとして後輩教員にメンタリングを行えるようになることを目指す。また、実習の後半では状況に応じて前半での分析成果をふまえてメンターとして教職大学院の学部新卒学生1年生を対象に、もしくは、若手教師の授業映像等を用いて模擬メンタリングを行う。学校課題解決研究Ⅰ・Ⅱでリフレクションを行う。
特別支援教育 チームメンタ リング実地研 究	泉真由子、渡部匡隆、 名執宗彦	2 (特)	現職教員学生は、学校の課題解決をチームで効果的に行えるようになり、それによって、校内の同僚性の基盤を作ることができ、学校が抱える問題を解決することができるようになることを目指す。 学部新卒学生は、チームの活動を通して、若手教員としてどのように学校が抱える問題の解決に参画できるか考えられるようになり、また、若手教員として校内の教員と関係を築けるようになることを目指す。現職教員学生による学校組織・学校の課題(の現状)分析、チームメンタリングの設計・実施・統括的評価を行う。学校課題解決研究Ⅰ・Ⅱでリフレクションを行う。

● 課題研究

授業科目	担当教員	単位数	講義の概要
学校課題解決 研究Ⅰ	大島聡、高木まさき、 野中陽一、脇本健弘、 石塚等、大内美智子、 北村公一、佐野泉	2	全教員・全学生が一堂に会し、連携協力校における授業実践、調査研究、メンタリングへの参画等、学校課題解決に関わる取り組みについて、リフレクションを行う。個別課題の追究と集団による検討、指導教員による指導を組み合わせ、学校課題研究報告書の構想と作成を行う。ターム制を活かし、授業時間外の主体的な学修を促し、理論と実践の往還を図る。

学校課題解決 研究Ⅱ	大島聡、高木まさき、 野中陽一、脇本健弘、 石塚等、大内美智子、 北村公一、佐野泉	2	全教員・全学生が一同に会し、連携協力校における授業実践、調査研究、メンタリングへの参画等、学校課題解決に関わる取り組みについて、リフレクションを行う。連携協力校の管理職、教員との協議を定期的に行いながら学校課題の解決のためにチームメンタリングを行い、各科目、実習を通して学んだ理論を、実践を通して検証、実証し、学校課題研究報告書をまとめる。
学校課題解決 研究Ⅰ（特別 支援教育）	泉真由子、渡部匡隆、 名執宗彦	2 (特)	全教員・全学生が一同に会し、連携協力校における特別支援教育に関わる授業実践、調査研究、メンタリングへの参画等、学校課題解決に関わる取り組みについて、リフレクションを行う。個別課題の追究と集団による検討、指導教員による指導を組み合わせ、学校課題研究報告書の構想と作成を行う。
学校課題解決 研究Ⅱ（特別 支援教育）	泉真由子、渡部匡隆、 名執宗彦	2 (特)	全教員・全学生が一同に会し、連携協力校における特別支援教育に関わる授業実践、調査研究、メンタリングへの参画等、学校課題解決に関わる取り組みについて、リフレクションを行う。連携協力校の管理職、教員との協議を定期的に行いながら学校課題の解決のためにチームメンタリングを行い、各科目、実習を通して学んだ理論を、実践を通して検証、実証し、学校課題研究報告書をまとめる。

1.1. 時間割

※履修登録機関：第1～3タームは4月、第4～6タームは10月

※単位の丸数字は、必修科目または選択必修科目

●第1ターム（4月6日（金）～6月7日（木））

曜日	時間	コード	授業科目	担当教員	教室	単位	学年
月	8:50～	AX14101	組織マネジメントと学校経営	大内・北村	デ 206	②	1～2
	12:00						
火	8:50～	AX11101	学習指導要領と教育課程の編成	高木・石塚	デ 206	②	1～2
	12:00	AX11201	特別支援教育の教育課程開発	渡部・名執	3-215	②	1～2
水	8:50～	AX15101	教職メンタリングの理論と実践	脇本・柳澤	デ 206	②	1～2
	12:00						
木	8:50～	AX12102	ICTを活用した授業改善	野中・椎名	デ 201	②	1～2
	12:00	AX12202	個別の教育支援計画・個別の指導計画	名執・持田	3-215	②	1～2
金	8:50～	AX13101	教育相談体制とカウンセリング	佐野・泉	デ 206	②	1～2
	12:00						

●第2ターム（6月8日（金）～8月3日（金））

曜日	時間	コード	授業科目	担当教員	教室	単位	学年
月	8:50～	AX16101	教育改革の現状と神奈川の教育事情	石塚・北村	デ 206	②	1～2
	12:00						
火	8:50～	AX14102	学級経営・学級指導の実践と課題	大内・佐野	デ 206	②	1～2
	12:00						
水	8:50～	AX12101	授業デザインの理論と実践	高木・柳澤	デ 206	②	1～2
	12:00	AX12201	特別支援教育の授業デザイン	渡部・持田	3-215	②	1～2
木	8:50～	AX23101	校内研究・研修の方法論	大内・北村	デ 206	2	1～2
	12:00	AX24202	特別支援教育の理論と実践	泉・名執	3-215	2	1～2
金	8:50～	AX16201	インクルーシブ教育の理論と課題	泉	デ 206	②	1～2
	12:00						

●第3ターム（8月4日（土）～9月30日（日））： 集中・通年科目のみ

●通年科目等（第1ターム～第3ターム）

	コード	授業科目	担当教員	教室	単位	学年
通年・集中	AX21101	教育実践研究の方法（不定期）	脇本・野中	デ 201	2	1～2
	AX21102	教育実践論文演習（不定期）	高木他	デ 206	2	1～2
	AX21105	課題フィールドワーク（不定期）	全教員	デ 206	2	1～2
	AX22101	基盤的な学力育成の理論と実践（第3ターム・集中）	高木他	デ 206	2	1～2
	AX24201	特別支援学校経営の理論と実践（第3ターム・集中）	名執	3-215	2	1～2
	AX13102	児童生徒がもつ課題の理解と指導方法（第3ターム・集中）	佐野・大島	デ 206	②	1～2
実習科目	AX31100	授業基礎実地演習（第1ターム）	全教員	-	②	1～2
	AX32100	学級・学年経営基礎実地演習（第2・4・5ターム）	全教員	-	④	1～2
	AX45101	メンタリング実地研究（不定期）	全教員	-	②	1～2
	AX46101	チームメンタリング実地研究（不定期）	全教員	-	②	1～2
	AX33200	特別支援教育授業基礎実地演習（第1ターム）	全教員（特）	-	②	1～2
	AX34200	特別支援学級・学年経営基礎実地演習（第2・4・5ターム）	全教員（特）	-	④	1～2
	AX47201	特別支援教育メンタリング実地研究（不定期）	全教員（特）	-	②	1～2
	AX48201	特別支援教育チームメンタリング実地研究（不定期）	全教員（特）	-	②	1～2
課題研究	AX55101	学校課題解決研究Ⅰ（水曜午後・不定期）	全教員	デ 206	②	1～2
	AX57201	学校課題解決研究Ⅰ（特別支援教育）（水曜午後・不定期）	全教員（特）	デ 206	②	1～2

●第4ターム（10月5日（金）～11月30日（金））

曜日	時間	コード	授業科目	担当教員	教室	単位	学年
月	8:50～	AX22103	教材研究・単元開発	両角・佐野	デ201	2	1～2
	12:00						
火	8:50～	AX15102	教員の社会的役割と職能発達	脇本・北村	デ206	②	1～2
	12:00						
水	8:50～	AX22102	総合的な学習の理念とカリキュラム開発	大内・柳澤	デ206	2	1～2
	12:00	AX24203	特別支援教育コーディネータの役割と課題	渡部・持田	3-215	2	1～2
木	8:50～						
	12:00						
金	8:50～	AX21104	家庭・地域と連携した情報モラル教育	大島・椎名	デ206	2	1～2
	12:00						

●第5ターム（12月3日（月）～2月12日（火））

曜日	時間	コード	授業科目	担当教員	教室	単位	学年
月	8:50～						
	12:00						
火	8:50～	AX21103	学習科学と教材開発	脇本	デ201	2	1～2
	12:00	AX24204	発達障害児の心理と教育	渡部	3-215	2	1～2
水	8:50～						
	12:00						
木	8:50～	AX23102	教育の情報化と学校改革	野中他	デ206	2	1～2
	12:00						
金	8:50～						
	12:00						

●第6ターム（2月14日（木）～3月31日（日））：最終報告（研究成果報告会）

●通年科目等（第4ターム～第6ターム）

	コード	授業科目	担当教員	教室	単位	学年
通年・集中	AX23103	教育の国際比較（第5ターム・集中）	野中他	デ206	2	1～2
課題研究	AX56101	学校課題解決研究Ⅱ（水曜午後・不定期）	全教員	デ206	②	1～2
	AX58201	学校課題解決研究Ⅱ（特別支援教育）（水曜午後・不定期）	全教員（特）	デ206	②	1～2